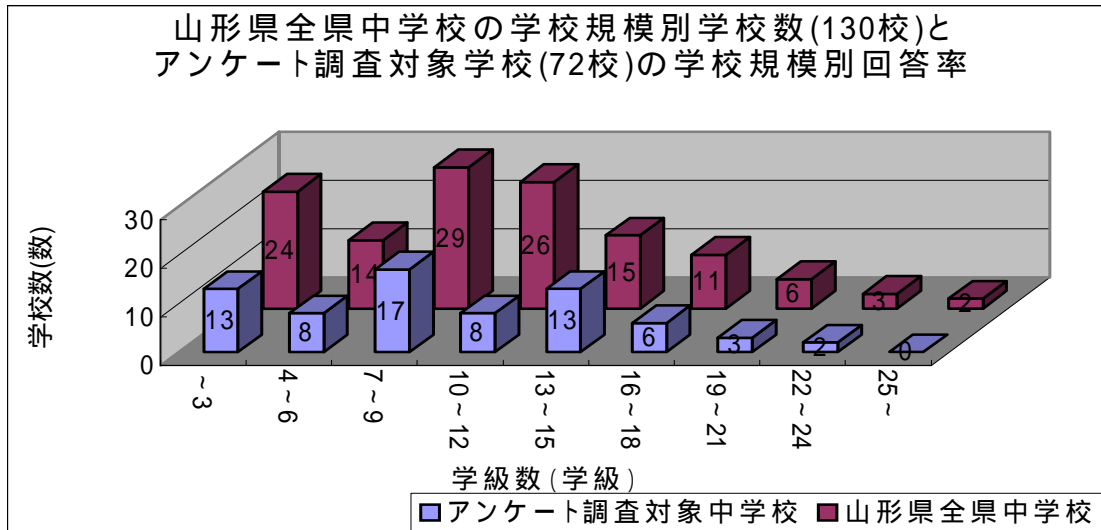


1. 学校の概要について

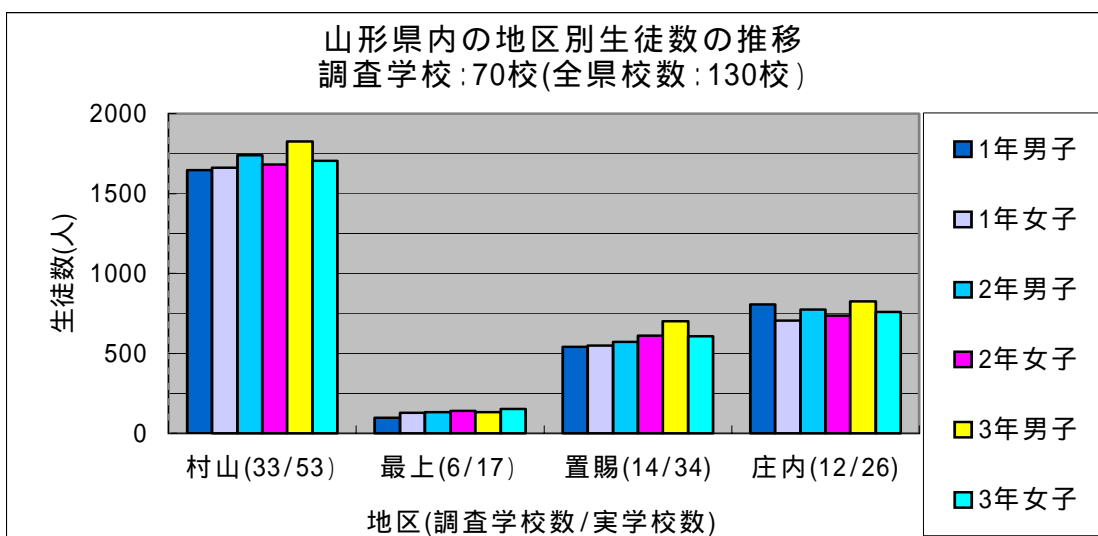
(1.A)



(1.A)

- ・山形県全体において9学級以下の学校が52%を占め、12学級以下の中学校としてみれば72%におよんでいる。
- ・小規模学校が多いことが特徴としてあげられる。

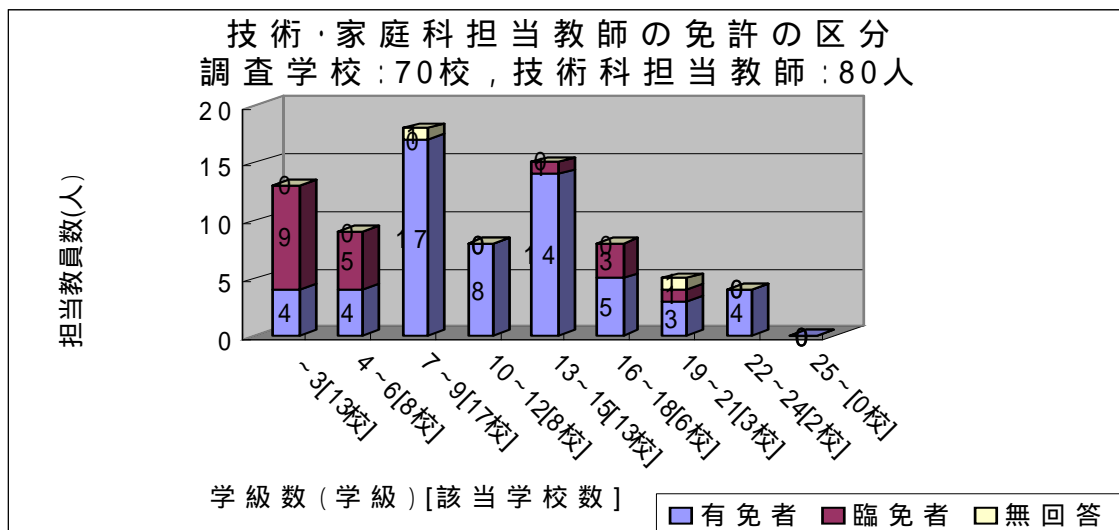
(1.B)



(1.B)

- ・生徒数は全体的に見ると、若干女子生徒よりも男子生徒のほうが多い。
- ・顕著には現れていないが、3年生よりも2年生が、2年生よりも1年生が少なく、減少傾向にある。

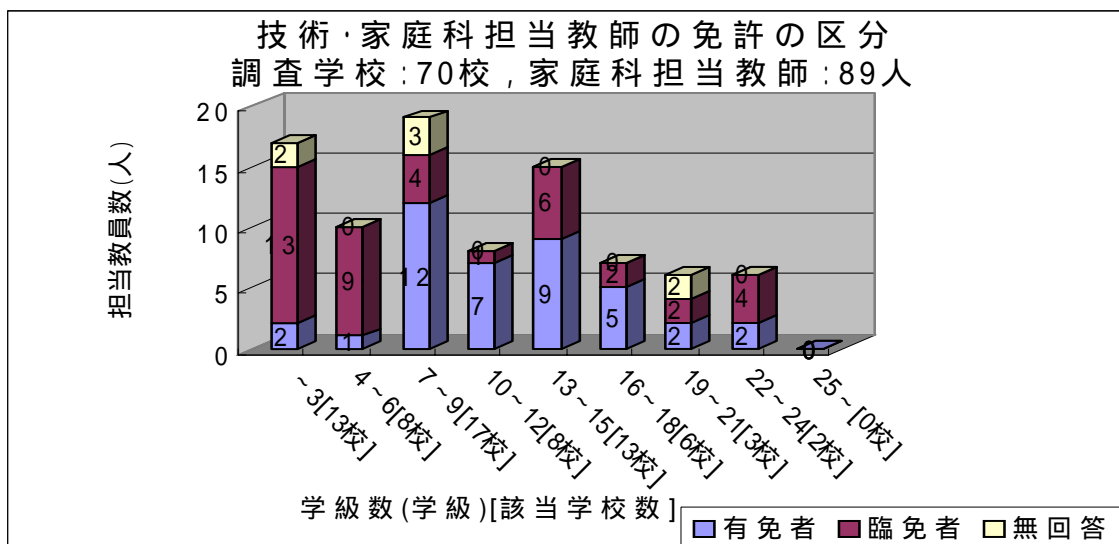
(1.D.1)



(1.D.1)

- ・有免者の割合は、学校規模が大きくなるほど大きい。
- ・6学級以下の小規模学校において臨免者の技術科担当教師が多い。
- ・技術科担当教師を全体的にみると、有免者の割合は74%、臨免者の割合は24%となった。

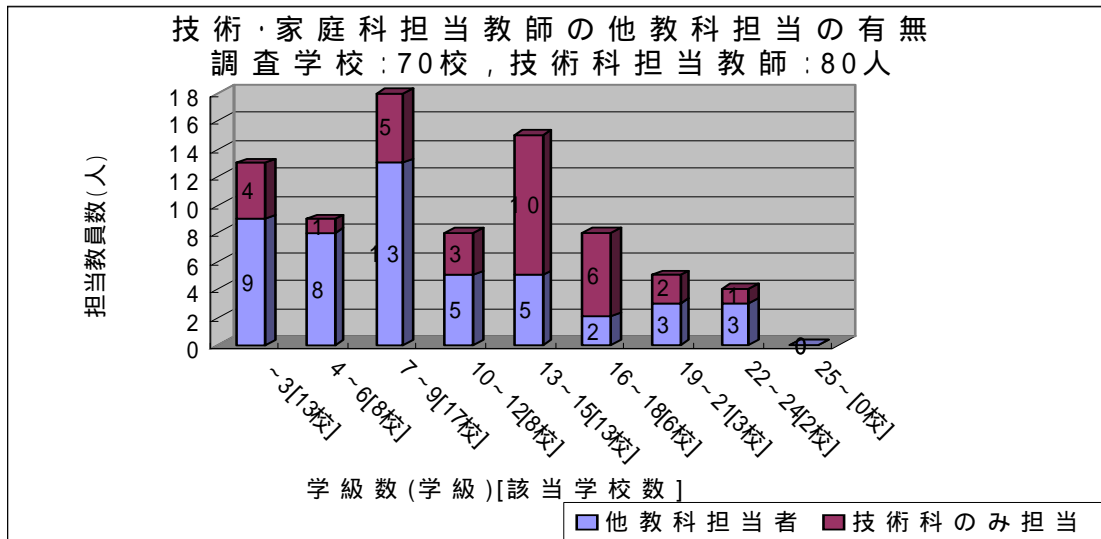
(1.D.2)



(1.D.2)

- ・6学級以下の小規模学校において、家庭科担当教師の多くは、臨免者である。
- ・家庭科担当教師を全体的にみると、有免者の割合は45%、臨免者の割合は46%となった。

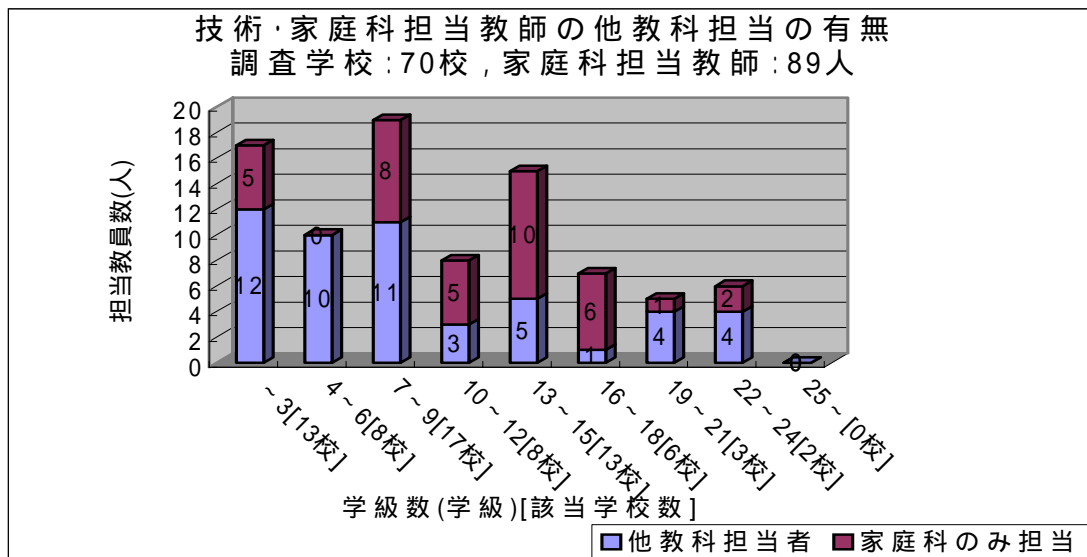
(1 . D . 3)



(1 . D . 3)

- ・他教科を担当している技術科担当教師は，学校規模が小さいほど多い。
- ・13～18学級の学校では，技術科のみ担当している教師が比較的多い。
- ・全体的には，技術科担当教師の60%が他教科を担当している。

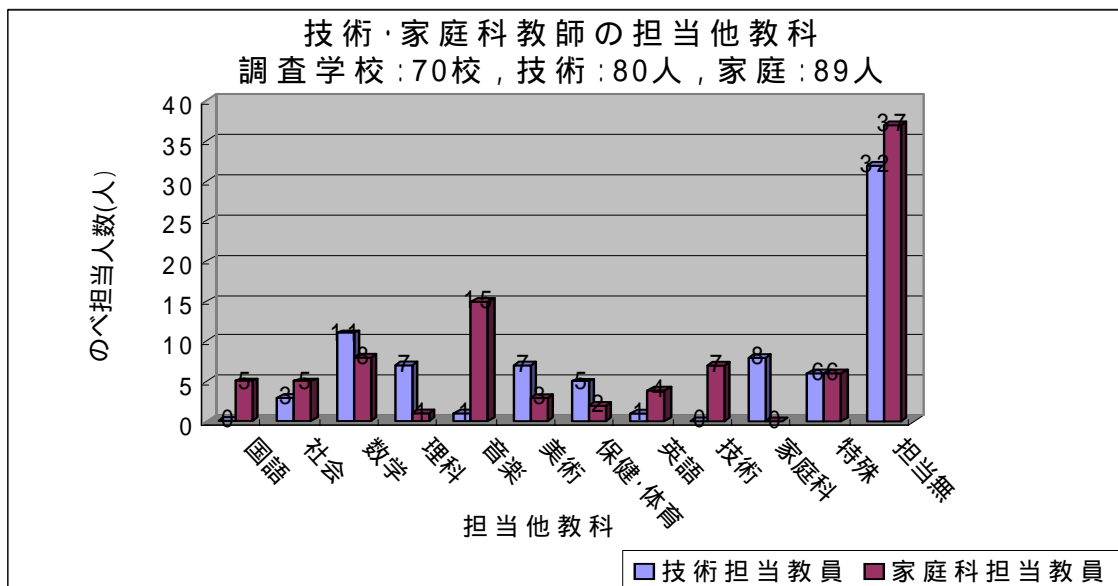
(1 . D . 4)



(1 . D . 4)

- ・他教科を担当している家庭科担当教師も学校規模が小さくなるほど多く，技術科担当教師と同じ傾向にある。
- ・10～18学級の学校では，家庭科のみ担当している教師が比較的多い。
- ・全体的には，家庭科担当教師の56%が他教科を担当している。

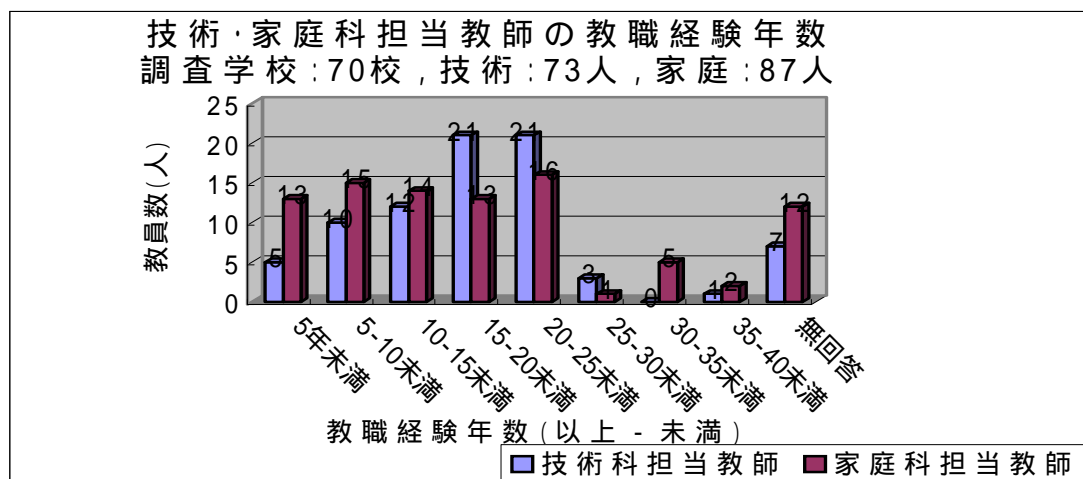
(1 . D . 5)



(1 . D . 5)

- ・技術科担当教師の担当他教科は，
1，数学 2，家庭科 3，理科・美術の順に多い。
- ・家庭科担当教師の担当他教科は，
1，音楽 2，数学 3，技術の順に多い。
- ・「他教科担当無し」は，全体の割合で，
技術科担当教師 40%，家庭科担当教師 44%であった。

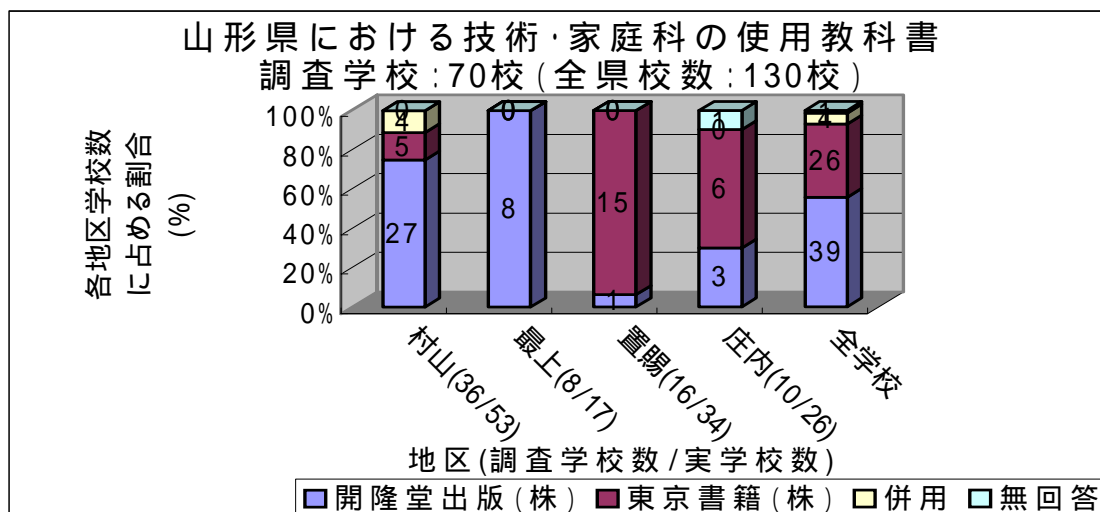
(1 . D . 6)



(1 . D . 6)

- ・技術・家庭科とも25年以上のベテラン教師が少ない。
- ・技術は15～25未満の教師が多い。

(1 . E)



(1 . E)

- ・村山地域では、開隆堂出版が多いものの、一律ではなく併用もある。また、最上地域ではすべて開隆堂出版である。
- ・置賜・庄内地域では、東京書籍が多いものの、一律ではない。
- ・全体では、開隆堂出版の教科書が約6割の学校で使用されている。

学校の概要について 前回調査との比較

(1.A)

(1.A)⁴⁾との比較

アンケート調査対象学校の学校規模別割合は、学級数が10～12学級・25～学級の学校における回答学校が少なかったものの、その他は、前回調査と同様であった。また、学校規模についてみると、前回調査とはやや区分が異なるものの、県内における小規模な学校の占める割合は、～11学級の割合が63%(H7調査)から、～12学級の割合が71%(H15調査)と同傾向にあると考えられる。

(1.B)

(1.B)⁴⁾との比較

生徒数についても前回調査とほぼ同様で、減少傾向にあった。

(1.D.1)

(1.D.1)⁴⁾との比較

技術科担当教師は、臨免者の割合が前回42%であったのに対し、今回24%と減少した。

(1.D.2)

(1.D.2)⁴⁾との比較

家庭科担当教師は、無回答者を除いた臨免者・有免者の割合は前回調査とほぼ同じで、臨免者の割合が51%であった。

(1.D.3)

(1.D.4)⁴⁾との比較

技術科担当教師が他教科を担当する(逆の場合も含む)割合は、前回78%から、今回60%と小さくなった。

(1.D.4)

(1.D.5)⁴⁾との比較

家庭科担当教師が他教科を担当する(逆の場合も含む)割合は、前回78%から、今回56%と小さくなった。

(1.D.5)

(1.D.6)⁴⁾との比較

技術科担当教師の担当他教科は、前回 1.数学 2.保健体育 3.理科・美術の順であったのに対し、今回 1.数学 2.家庭科 3.理科・美術の順へと変化が見られ、家庭科との兼担が増加している。また、家庭科担当教師の担当他教科は、前

回 1. 音楽 2. 国語 3. 英語の順であったのに対し、今回 1. 音楽 2. 数学 3. 技術の順へと変化が見られ、数学・技術との兼担が増加している。さらに、他教科担当無しは、技術科担当教師が前回 21.5%から今回 40%へ、家庭科担当教師が、前回 20.5%から今回 41%へと増加傾向が見られたが、依然として兼担者は多い。担当他教科の中で、技術科担当教師において 1 位、家庭科担当教師において 2 位だった数学は「T・T」として受け持っている教師が多かった。

(1. D. 6)

(1. D. 7)⁴⁾との比較

技術科担当教師の教職年数は、15～25年未満が多く、前は凹型だったのに対し、凸型になっている。技術・家庭科担当教師ともに25年以上のベテラン教師が少ない状況に変化はみられなかった。

(1. E)

(1. E)⁴⁾との比較

使用教科書は、最上地区では変化が見られなかったが、村山地区では、前回 開隆堂(61%)、東京書籍(21%)、併用(18%)であったのに対し、今回 開隆堂(75%)、東京書籍(14%)、併用(11%)へ、置賜地区では前回 開隆堂(45%)、東京書籍(35%)、併用(10%)であったのに対し、今回 開隆堂(6%)、東京書籍(94%)、併用(0%)へ、庄内地区では、前回 開隆堂(100%)であったのに対し、今回 開隆堂(30%)、東京書籍(60%)、併用(0%)へと変わっている。地区ごとの使用教科書に大きな動きがみられる。

(学校の概要における動向の特徴と考察)

技術・家庭科担当教師において、H7年調査と比較すると臨免者が減少、技術・家庭科担当教師の他教科担当が減少しているものの、小規模な学校においては依然としてそれらの数は多い。このことから、小規模な学校では一つの学校で一人の教師が複数教科を受け持ち、13～18学級の学校では一つの学校で一人の教師がそれぞれ技術と家庭科を専任で担当している傾向が高いと考えられる。また、技術科担当教師における家庭科の兼任の増加、家庭科担当教師における技術科の兼任の増加から、小規模学校において、一人の教師が技術と家庭科を兼任している傾向が高まっているのではないかと考えられる。